26 愛防第 72 号
平成 26 年８月１日

各関係機関・団体長　殿

愛媛県病害虫防除所長

発生予察情報について（送付）

病害虫発生予察特殊報（第２号）を下記のとおり発表したので送付いたします。

平成２６年度　病害虫発生予察特殊報（第２号）

平成 26 年８月１日
愛　　媛　　県

病害虫名　　イチジクモザイク病

病 原 名　　イチジクモザイクウイルス（Fig　mosaic virus）

作　　物　　イチジク

特殊報の内容　　愛媛県における発生の初確認

１　発生地域　　中予地域

２　発生経過

平成26年６月に松山市の露地イチジク（品種：蓬莱柿）栽培園地において、葉の退緑、奇形、モザイクを示す症状が確認され、発生樹率は８割を超えていた。愛媛県病害虫防除所においてRT-PCRとPCR産物のダイレクトシーケンス解析を行ったところ、全ての症状葉からイチジクモザイクウイルスが検出された。この検定結果から本症状はイチジクモザイク病の病徴であることが判明した。さらに中予地域の他の露地イチジク園地で調査を行ったところ、他の７園地の発病葉からイチジクモザイクウイルスが検出された。

３　他県での発生状況等

平成23年に島根県と福岡県、平成25年に岡山県と愛知県で発生が確認されている。東京大学農学生命科学研究科のプレスリリース（平成23年４月11日）によると、国内においては約50年前からイチジクの葉や果実が退緑するモザイク病が発生していたが当時は原因不明とされていた。東京大学 植物病院®が、島根県での発生事例を究明した結果、ウイルス病であることを明らかにしている。

４　病徴

本ウイルスに感染すると葉ではモザイク症状（図１）や葉脈に沿った激しい退緑、奇形症状（図２）、さらにはモザイクの周縁にえそ症状（図３）が現れる。また、枝では節間の短縮や未着果枝の発生がある。以上の症状は、樹全体や主枝単位など樹の一部で見られる。なお、樹体症状では枯死までには至らないが果実表面に斑紋が見られることから、症状が著しい場合には商品価値を下げる恐れがある。

５　感染植物

イチジク以外の自然感染植物は未確認とされている。

６　伝染方法

感染した親株から採取した挿し木などによる栄養繁殖で伝染する。イチジクモンサビダニによりウイルスが伝搬されている可能性が高い。接触伝染や土壌伝染はしないとされている。

７　防除対策

１）病徴のない苗木（健全苗）を使用する。
２）病徴の見られる樹の枝を挿し木等に使用しない。
３）イチジクモンサビダニの薬剤防除を行う。本虫の発生初期となる４～６月にサンマイト水和剤1,500倍、ピラニカ水和剤2,000倍、ダニトロンフロアブル2,000倍のいずれかを散布する。なお、農薬を使用する際には、最新の登録内容を十分確認すること。

図１　モザイク症状

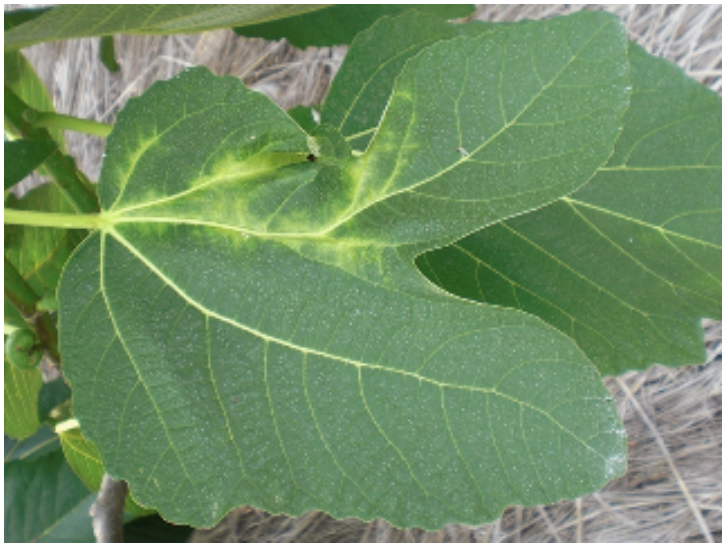

図２　葉脈に沿った退緑と奇形

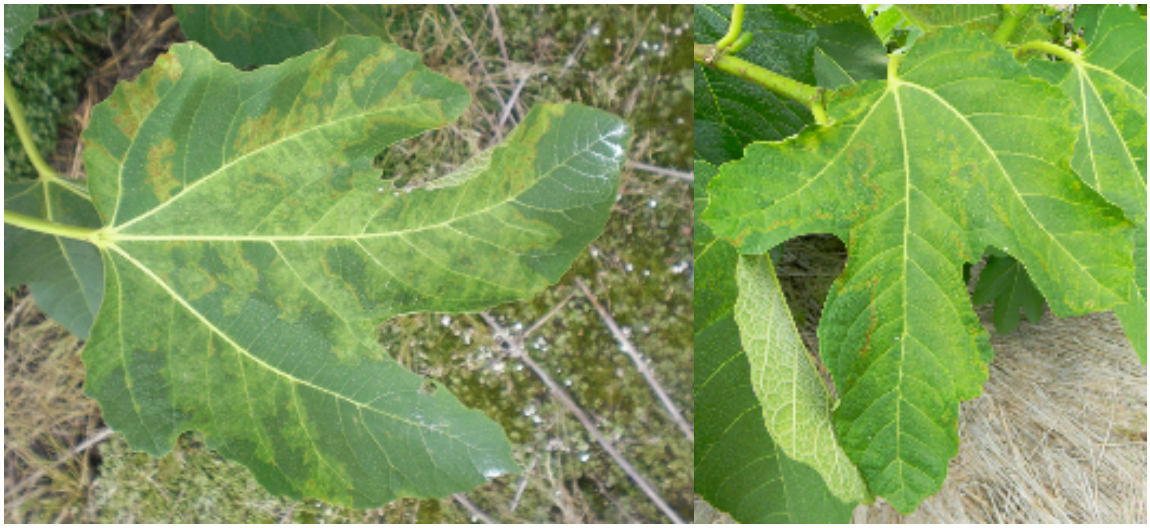

図３　モザイクと周縁のえそ症状